

「冷熱を秘めて」

先日も、同志社びわ湖リトリートセンターというところで、牧師と牧師家族だけの忘年会を開催しました。今回は、牧師と牧師家族であるだけでなく、集まった牧師 11 名のうち、6 名が牧師の子どもでした。

誰かが「ここにおるの、牧師の子ども多いな」と茶化す中で、「有岡さんの子どももきっと牧師になりますよ」と、なんかちょっと予言っぽいことも言われて、でも、まあ、それは神様しか知らんことやな、と思いました。

2024 年に開催した時は、午前 5 時まで飲み明かしたという話を、今年のこの元旦礼拝で披露したところですが、今回は、私も歳をとったのか、次男を午後 11 時くらいに寝かしつけた時に、そのまま寝落ちしてしまって、誰よりもしっかりと睡眠を取るようになりました。私が消えたあと、午前 3 時くらいまで忘年会は続いたそうです。ほとんど私は、今回の忘年会に参加できていない、という事になりますね。

実は、今回は妻のほうが健闘と言いますか、楽しんでくれたようで、妻は午前 2 時まで別室で開催されていた「牧師夫人と女性牧師の会」に参加していたとのこと。どんな話題で盛り上がっていたのかは、ちょっと恐ろしくて確認していません。まあ、翌朝の顔色をみるに、悪い会ではなかったようです。

そんな感じで、今年の「牧師と牧師家族だけの忘年会」も盛況のうちに解散と相成りました。多分、今年も開催されるんじゃないかならうかと思います。今回の開催でも、そうでしたが、忘年会な

ので、もちろん取り留めもない、下らない話題で盛り上がる一方で、教会の将来を否応無く担わされる世代が集まって言葉を交わす訳ですから、危機感に裏打ちされた真剣な話もしました。少子高齢化の最先端を行く教会。高齢、ベテラン牧師の中には、「自分が隠退するまで教会が持てばいい」という刹那的、保身的な考え方の人もいるらしいと聴きます。それほど数は多くないと思いますが、聖書の記述にも「今この時」の平安にしか興味を持たない施政者も出てきます。「明日のことまで思い煩うな」という尊い御言葉が、明日の世界でも聴けるように、「いまの教会も、できることはしていかないとね」と、そんな真面目な話もしてきました。

ベテランがキリスト教全体の屋台骨を支えると同時に、若手の先生たちも、自らの賜物を十分に活かして、責任重大な働きを担うことが求められています。熱い信仰だけでは届かず、冷たい理性だけじゃ意味がない。そんな難しい福音宣教の最前線に私たちはいます。パウロさんも言ったように、神様に祈ることで世界をより良くしようという愚かな仕事と、目の前の困った人を助けるように、目の前の克服すべき課題をしっかりと見つめて対処する巧みな仕事もしないといけません。今回の説教題を「冷熱を秘めて」としたのは、そういう熱い信仰と、冷たい理性の両立が必要と考えたからです。でも、それは「熱く激しく」とか「冷たく冷徹に」とか、そういうことじゃなくて、牧師と信徒の違いなく、神様から与えられた命と賜物の価値を知って、諦めたくないものを諦めない、望みたい未来と望み続けるという、当然の権利をちゃんと使っていこうよ、ということです。

神様は「なまぬるい」ことを嫌われる、と今日の聖書箇所には書いてありました。「熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」。個人的には、この御言葉は、聖書の中でも一二を争うくらいに興味深いものです。神様は、私たちに「冷たいか熱

いか、どちらかであってほしい」と言うのです。この意味深な御言葉の解釈の仕方は一つじゃなく、色々な読み方ができます。そんな中で、私は、この「なまぬるい」状態というのは、神様の御前に尻込みしている状態だと理解しています。せっかく神様に愛されて生まれてきたのに、招かれてキリスト者になったのに。その実績と価値に自ら目を逸らして、自分のことを低く見積もって、「私なんて」と思ってしまうのは、御心じゃないよねと。それは「なまぬるい」よねと。神様は、きっと私たち一人一人に、もっと自信を持って熱く奮い立って欲しいのだと思います。と同時に、謙虚さから考えることさえ放棄している自分の賜物と力を冷静に捉え直して欲しいのだと思います。自分は、何を求めているのか、何を夢見ているのかを熱く言葉にして諦めず。そのために、私には何ができるだろうか、何ができないだろうかと感情に流れず冷静に考えてみる。どこまでも絶望を遠ざけて、神様がくださった恵みと賜物を最大限に用いて、自分のことを、家族のことを、教会のことを、職場のことを、社会のことを、世界のことを少しでも幸せにするために。「熱く熱心に」信じ抜いて、「冷たく冷静に」考え抜く。「どうせ」とか「所詮」とか言わずに、せっかく与えられた、この命と知恵を総動員して、私たちの未来を掴みに取りに行く。

確かに、こうやって言葉にしてみると、大袈裟過ぎて恥ずかしくなるかも知れません。「私たちの未来」って何だろうって考えると、漠然としていて分かりにくいし、言葉だけが一人歩きしている感もあります。でも、何でもいいから、「こうなったらいいのに」という願いは、私たちの心に一つくらいありますよね。別にそれは人様に胸を張れる願いである必要はありません。「神様、あと 5kg 痩せたいのです」なんて願いでも全然 OK です。大事なものは、素敵な未来を思い描いて、祈り求めて、今日という日を喜び楽しんで過ごすことです。神様とイエス様が一緒にいてくれるから、今悲しくても、つらくても、絶対に光は見つかる、希望は消えない、明日は笑顔になれると知っておくこと。これが、信仰の大切なことです。イエス様は、私たちが今日も明日も

希望に支えられて恵みの中を生きていけるようにと十字架に掛かれたのです。それは言い換えるなら、私たちが一つでも笑顔を増やして生きていけるようにと、ということです。「恵み」とは触れては消える霞のようなものではなくて、触れれば温かく、聞けば嬉しく、受け取れば笑顔が溢れるような、そういう具体的な形と重みを持ったものです。そういう具体的な恵みをお与えになるために、イエス様と神様は、私たちに関わろうとしてくださっている。そのことを信じてみることで、ちょっとだけ勇気と力をもらって、今日も上を向いて歩いてみる。そんな1日1日の積み重ねが、多分、今年1年を去年よりもちょっとだけ良いものにしようとするのだろうと私は信じています。

神様に「なまぬるい」と言われないように、諦めずに熱心に祈り求め、しっかり知恵も働かせて冷静に賢く、ご一緒に2026年の歩みを始めて参りましょう。多分、嫌なことも、不幸なことも起こります。別に神様は楽勝な人生を約束されている訳じゃありません。でも、その嫌なこと、不幸なことの先にも、新しい風景があると信じて。1月1日の今日、神様への親しみと、イエス様への信頼を新たにしたいと願うものであります。最後にお祈り致します。

神様。あなたに支え導かれ、走り終えることのできた2025年を感謝致します。もちろん、良いことばかりではなかったことも思い出します。けれど、今日もこうして笑顔で「明けましておめでとうございます」と言えるのは、あなたの恵みであると信じます。どうか、今日から始まる2026年も、あなたのお守りを信じて、イエス様の励ましを受け入れて、順風のときも、逆風のときも、心を高くあげて歩んでゆくことができますように。絶望を遠ざけて、人同士の温かみを尊び、あなたへの感謝を表し、恵みを数えつつ、最後、「色々あったけど、今年も良かったなあ」と言えるような、そんな1年を多くの方々と一緒に過ごすことができますように。

このお祈りを大切なイエス様のお名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。